



# 石神井南中学校 学校だより

平成30年度 第6号  
発行日10月 18日(木)  
練馬区立石神井南中学校  
校長 田邊 克宣

## 「命」

校長 田邊 克宣

富士山もうっすらと雪化粧を施し、だいぶ秋らしくなってきました。2学期も早一月半が過ぎ、この間に、2年生の職場体験、3年生の修学旅行、定期考査を挟んでの連合陸上大会に、生徒会役員選挙、また連合音楽会と、普段の授業や部活動に加えての、それぞれに意義のある大事な行事に、生徒たちも一生懸命に取り組んできました。

さて石南中では、すべての教育活動の根幹に、「命」の大切さを据えています。

修学旅行の広島では、被爆された方から、「なにより親から与えられた命を大切にしてほしい。」という願いをお聞きしました。3年生の心に刻み込まれたであろうこの言葉を、朝礼で、

1. 2年生にも伝えました。

先週の土曜日には、外部講師による「いのちの授業 ～がんを通して～」を行いました。サブタイトルにある通り、特定の病気を題材として扱うだけに、事前に運営スタッフと学校側とで綿密に打ち合わせをした上で、本番の講演会を迎えるという段取りを組みました。

当日は、まず進行役の川口 利(かわぐち さとし)様から生徒たちに、「『命』と『いのち』の違いは何か。」との問いかけがされました。「『命』は『生命』であり、『いのち』は『生き方・生き様』である。今日は、一つの正解を出すのではなく、一人一人に、それぞれ、考えてもらいたい。」というところから、講演会は始まりました。

講師は、元がん患者の阿南 里恵(あなみ りえ)様、そして血液内科の専門医である久住 英二(くすみ えいじ)様のお二人です。それぞれの体験に基づいたお話をお聞きしながら、生徒だけでなく、保護者、教員も考え、気付かされることも多く、充実した時間となりました。時には涙を禁じ得ない場面もありました。最後に阿南さんがお伝えくださった三つのことを、記します。

- 一 命はいつ終わるか分からない。それは、家族も友達も皆同じ。
- 一 辛くて辛くてたまらない時、SOSを出していいんだ。
- 一 幸せは比べられない。自分が気付くこと、感じること。

一人一人が考えた『命』と『いのち』について、友達と、家族と、ぜひ話題にして下さい。そしてお互いに、またそれぞれに、『自らの生き方』について思いを深めていってほしいと願っています。

いよいよ今週末には文化発表会が行われます。生徒たちは今、学級・学年・部活動と、それぞれの準備に余念なく取り組んでおります。ぜひお越しいただき、石南中生の『命のエネルギー』を間近に感じていただきたく、お待ち申し上げます。



いのちの授業

## 2 学年職場体験

2 学年 古澤 有紀子

2 年生は、9 月 4 日 5 日と職場体験学習がありました。大型台風の影響で実施が危ぶまれましたが、ほぼ全ての事業所で予定通りの体験をさせていただき、無事に終わることができました。お忙しい中、中学生を受け入れ、一人一人に優しく丁寧に指導くださった各事業所の皆様に改めて感謝申し上げます。

子供たちは、とても緊張した面持ちでしたが、飲食店などでは初めて見るお店の裏側に驚き、貴重な体験に喜んでいました。それぞれに、実際に働くことの大変さを実感し、その中にやりがいや楽しさを見つけていたようです。

多くの事業所から元気に挨拶ができよくやっていると言ってくれましたが、一部では挨拶ができませんねという言葉も頂戴しました。また、自分から積極的に仕事を見つけて行動する姿勢はやや弱い面があるようで、今後の課題となります。

この職場体験で学んだこと、見えてきたことを今後の学校生活や進路選択に活かしてほしいと思います。



**レストランとんでん**



**丸正食品**



**西武鉄道石神井公園駅**



**南田中図書館**

# 集大成となる修学旅行

第3学年主任 田川 慎

9月23日（日）から25日（火）まで、3年生は中学校生活最後となる宿泊行事の修学旅行に行ってきました。当日の朝は気温も穏やかで過ごしやすいスタートを切ることが出来ました。一つ目の思い出は新幹線。初めて乗る生徒や友達と乗るのが楽しみだった生徒が多く、車内はとても明るい声でいっぱいでした。中には朝早かったこともありお疲れモードの生徒もいましたが、広島に近付いて行くにつれてみんなの気持ちが高まっていくのを感じました。初日の見学地は大和ミュージアムです。大きな礎に迎えられた生徒たちの表情は、館内は他に何が待っているのかとワクワクしたものでした。中に入ると、ほとんどの班が真っ先に大きな戦艦大和の前に。その迫力に魅了され、見とれている生徒がいました。また、館内の展示物に興味をもって集中して見学している姿も見られました。そして、何よりも大切な体験は被爆者の石原さんの講話です。石原さんは、原爆症で苦労したことでは無く、今生きていることに感謝し自分ができる平和のための活動を続けること、これから社会に出る生徒に取り組んで欲しいことを元気一杯に話してくれました。これを機に、小さなことでもいいので自分の出来る平和活動を実践してくれることを願っています。

二日目の朝はセレモニーから始まりました。平和を願い歌う生徒の姿に頼もしさを感じました。平和記念資料館では、東館のみの見学になってしまいましたが、生徒は集中して見学していました。そして、いよいよ京都班別行動。始めて行く町で、班員と協力して見学場所を周り無事に宿舎に帰って来ることが出来ました。道中のちょっとしたハプニングや楽しい思い出は、文化発表会での展示物「修学旅行ノート」、「班新聞」をご覧ください。夕食は部屋ごとですき焼きパーティー。お肉はあつという間に完食。しかし野菜が…。どの部屋も仲良く美味しく食べることが出来ました。その後は、「念珠作成」の体験学習。それぞれの思いを込めて作成していました。こちらでも文化発表会で展示しますので生徒の力作をご覧ください。

三日目は班別タクシー行動でした。朝は雨がぱらついていましたが、1つ目の見学地を出発するころには止みました。学年主任の晴れパワーが勝ちました。タクシー行動は、半日しかありませんでしたが運転手さんのおもしろくて深いガイドもあり、どの班も楽しく行動することが出来ました。帰りの新幹線は行きとは違って静かな車内。みんな「楽しかった」という顔をしていました。大きな事故や病気が無く、無事に全員が帰って来られたのは大きな成果です。また、事後アンケートでは、「満足した」という回答が多かったですが、「もっと見たかった」という回答も見られました。興味をもたせることができたのも修学旅行の成果の一つかもしれません。

今回の修学旅行は、実行委員を中心にして生徒全員が最高の思い出にしようと頑張ってくれました。その結果、生徒にとって本当に良い思い出となったと思います。1年生から取り組んできた校外学習や宿泊行事の成果をつなげることが出来ました。運動会に続く2つ目の集大成となる修学旅行が終わりますが、3つ目の集大成となる文化発表会、自身の進路決定、中学校生活の集大成となる卒業式まで気を抜かずに、1つ1つの行事を生徒と全力で取り組んでいきます。保護者、地域の皆さん、今後ご理解ご協力をよろしくお願い致します。



朝の出発式

# 修学旅行の様子



新幹線車中



大和ミュージアム



石原さんの被爆体験を聞いて



平和公園でのセレモニー



伏見稲荷大社



龍安寺